ＪＲ東海労ニュース

№１２８３
２００９年 5月18日
ＪＲ東海労働組合

ＪＲ連合「あるべき労働組合像」Part４
目指すは箱根以西の労使関係?!

ＪＲ連合「あるべき労働組合像・労使関係像」で求めている労使関係は、一言でいえば箱根以西の労使関係です。その「言いぐさ」は目に余るものがあります。

「組織のためには平気で仲間を糾弾する運動や、一部役員による独善的な組織運営」「多数組合の不正義」などを並び立て、「現在のＪＲ東日本、北海道、貨物の多数組合や労使関係の状況は異常」と主張しますが、そのことすべてが事実に反し、ＪＲ連合幹部が勝手にデッチ上げたことです。つまり、ＪＲ連合は、ＪＲ総連を悪者にしなければ自らの組織運営が成り立たないということの裏返しなのです。そのくせ、自分らは「イデオロギーに偏らない、民主的で透明な組織運営」と言うのです。高級スナックで公安二課長などと密談することが、透明な組織運営なのでしょうか？

さて、さすがに御用組合らしく、「（労使）対立の局面では徹底した協議をし、相互が折り合いをつける“大人の関係”を築く」つまり、労使紛争はしないと宣言する一方、「労組として譲れない要求を実現すべき時などには、ストライキ権を確立」すると主張しています。どちらが正解ですか？私たちのストライキにさんざん難癖をつけておいて、どう説明するのでしょうか。また、会社が行う組合差別に協力してきたＪＲ連合が、「組合所属を理由とするあらゆる差別は許されない」などと、よくも言えたものです。

ＪＲ連合は暗黙で、「労使関係を箱根以西にしなければ、箱根以東は紛争をやるぞ」と主張しているのでしょう。これこそ、身勝手で、エゴの固まり以外の何ものでもありません。

〈完〉

自分たちだけがすべてだ、身勝手、エゴ丸出し！